

イングランドの気候地名：Berkshire及びWiltshire

宅 間 雅 哉

This is a second county-based report on English place-names containing climatic elements, dealing with Berkshire and Wiltshire. Using the Survey of English Place-Names of the two counties by the English Place-Name Society as a source, 336 examples are found: 226 in Berkshire, 110 in Wiltshire. Broadly, they are classified into five categories: the place-names meaning “bright/ dark,” “wet/ dry,” “cold/ warm,” “summery/ wintry,” and “windy.” In terms of the ratio of occurrences, the place-names meaning “wet/ dry” are the largest both in the northern and the southern halves of Berkshire, but in Wiltshire, the place-names meaning “cold/ warm” are the largest in the northern half, and those of “summery/ wintry,” in the southern half. As for the place-names meaning “bright/ dark,” those etymologically originated in Old English *sunne* “sun,” *deorc* “dark,” and *blind* “dark” are newly discovered. In spite of the largest number of occurrences among the above five categories, almost 90 percent of the place-names meaning “wet/ dry” are the field-names, the lands which are not used as habitations. Furthermore, the research on the place-names meaning “wintry” in the southern half of Wiltshire needs to include climatological and geological points of view.

キーワード：気候地名，イングランド，Berkshire，Wiltshire，field-names

1. はじめに

気候地名は気候条件が反映した地名である¹。具体的には，日照・日射，風，降水などの気候要素に関連する文字や単語のついた地名をいう。日本

の日向、日影、風越、雨坪、ドイツ語圏のSonnendorf, Schattenberg, Windhof, Schneeheide等がこれにあたる²。

本稿では、上記の定義に従い、イギリス地名協会(English Place-Name Society)が編纂する『イングランド各州地名要覧』(以下、『要覧』)をソースとして、Berkshire及びWiltshireの気候地名を収集し、日照・日射に関する地名、乾湿に関する地名、寒暖に関する地名、季節に関する地名、風に関する地名の順でそれぞれ研究成果を報告する。その際、Berkshire及びWiltshireの州域は『要覧』に付された地図に従い、今日の行政区画にはよらないこととする。イングランド南部のほぼ中央に位置する両州は、図1の①がBerkshire、②がWiltshireである³。

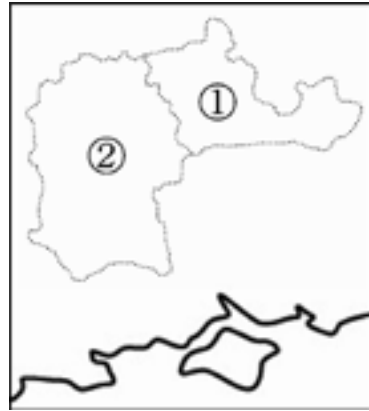


図1. Berkshire と Wiltshire

2. 研究の前提と手順

気候地名収集のソースとなる『要覧』のうち、Berkshireのそれは全3巻から成る。第1巻(1973年)は同州南部、第2巻(1974年)は同州北部の地名を扱っている。第3巻(1976年)は2部構成となり、第1部には土地の境界を定めた古英語の証書(charter)を注釈付きで掲載している。第2部では州の地名に関するイントロダクションのあと、地名構成要素となる単語の語義、及びそれらの分布傾向に関する解説が続く。頁番号は第1巻から3巻を通して付されており、最終的には955頁となる。従って、収集のソースとなるのは、Berkshireの場合、第1巻と2巻である。これに対してWiltshireの『要覧』(1939年)は1巻のみで、547頁に及ぶ。

収集は、『要覧』が見出し語とする地名に明らかに気候要素に関連する単語が含まれる場合、また気候要素に関連する意味を有すると考えられる単語が含まれる場合とした。前者の例には「露」を意味するdewが、後者の例には「暗い」を意味するblackが挙げられる。さらに、見出し語の地名にこうした単語が含まれていなくても、年代順に示された古形の中に1つでもそれが含まれていれば収集した。例えばWiltshireのBerwick St

James (232頁) は、1086年の古形としてWintreburneが示されているため、「冬」を意味する地名として収集した。

気候地名か否かの判断にあたっては、『要覧』に示された地名の定義（語源）、地名を構成する古語の意味、及び語源解釈に有益な解説等によった。また必要に応じてSmithを参照したが、このような情報が『要覧』及びSmithのいずれからも得られない場合にはEkwall, Mills, Wattsも参照した。さらに、出典が19世紀以降となる比較的新しい地名については、上に述べたような判断材料がなくても、明らかに気候要素に関連する単語が含まれる場合に限り、気候地名と判断した。

収集した気候地名の数え方は、『要覧』が示す見出し語の表記法に従った。例えば BerkshireのWinterdown Barn and Bottom (第2巻299頁), WiltshireのGreat and Little Somerford (73頁) 及びWinterbourne Dauntsey, Earls and Gunner (383頁) は、それぞれ「2例, 2例, 3例」とはせず、いずれも「1例」とみなした。

1973年から76年にかけて出版されたBerkshireの『要覧』では、教区(parish)ごとにfield-namesと呼ばれるものを網羅的に収集し、1800年以降のものをmodern, 1799年以前のをearlierと区別して提示している。1939年に出版されたWiltshireの『要覧』でも、巻末で教区ごとにfield-namesを提示してはいるが、新旧の区別はなく数もわずかで、あくまでも付加的な扱いでしかない。

field-namesとは、人が家屋敷を構えて定住していない土地、すなわち耕地、草地、湿地、荒れ地、森、林、藪等に与えられた名前である。言うまでもなく、これらはすべて収集の対象となる。field-namesに対する両州『要覧』の地名収集方針の違いは、第3節以降で明らかのように、BerkshireとWiltshireの気候地名の数にかなり大きな差を生む結果となる。だがこれは気候地名が前者で多く、後者で少ないということではなく、あくまでもソースとなる『要覧』が、地名研究におけるfield-namesの重要性を共有した時代のものなのかどうかという問題に過ぎない。

またほぼ全てのfield-namesは、現状では地図上の正確な位置を特定することができない。最終的に両州の気候地名総数の約半数をfield-namesが占めることになるため、2010年以降の論文で行ってきた分布図の提示は、今回は見合わせる。ただしBerkshireの「乾いた」及び「湿った」を意味する地名について、代替指標による分布図（試案）を作成し、第9節に提

示した。

気候地名の分類については、宅間（2013）同様、大分類として「日照・日射」「乾湿」「寒暖」「季節」「風」を設定した。以下の第4節から8節の記述はこの順序で行う。一方小分類については、宅間（2013）では「風」を除くすべての大分類を単純に二分し、「明」「暗」「乾」「湿」「寒」「暖」「夏」「冬」としていたが、今回「乾湿」「寒暖」「風」において細分化を行った。詳細は第5節・6節・8節と、これらの節に提示した表2・3・5に譲る。

この大分類と小分類を基盤として、現在「イングランドの気候地名データベース」を構築中である。このデータベースは、今回扱うBerkshireの情報入力から始まり、『要覧』による気候地名の収集作業と並行して日々拡充を図っている。本稿はこのデータベース活用による最初の論文となるが、これを資料として提示することはできない。今後、何らかの形で公開することを検討中である⁴。

以下では、2012年8月22日から28日にかけて実施したBerkshire及びWiltshire北部への巡検で、現地踏査によって得られた成果のいくつかを適宜紹介する。そして特定の気候地名を引用する際には、Berkshireの地名は巻数・アンダーバー・頁数の順で、Wiltshireの地名は頁数で出典を括弧に入れて表示する。例えばBlagrave (2_334) は、Berkshireの『要覧』第2巻334頁にあることを示す。

分布図を作成しないことによって議論が粗雑になるのを少しでも防ぐために、両州をそれぞれ北部と南部に二分する。これは州単位で行うよりも、少なくとも一歩踏み込んだ議論を可能にするものと考えらる。

Berkshireは、『要覧』の構成に従い、第1巻が扱う領域を南部、第2巻が扱う領域を北部とする。地理的に言うと、北部はNorth Wessex Downsの丘陵地を含み、その北麓からRiver Thamesに至る地域、南部はNorth Wessex Downsに北・西・南の三方を囲まれた盆地から東に向かい、丘陵地Chilterns南西端の南麓に至る地域となる。

Wiltshireは、地形と水系を考慮し、筆者の判断によって二分する。北部は、丘陵地West Wiltshire Downsの北麓から丘陵地Cotswoldsの南麓に至る地域とする。この地域の東寄りにはRiver Kennetとその支流が、西寄りにはBristol Avonとその支流が流れる。南部は、West Wiltshire Downsの南麓からSalisbury Plainを含む地域とする。この地域には、

Salisbury Avonとその支流River Till, River Bourne等が流れる。

3. 両州における気候地名の気候要素別（大分類別）割合

今回扱う気候地名は、両州合計で336例を数える。

Berkshireでは、226例を気候地名と判断した。このうち121例は同州北部に分布し、日照・日射に関する地名16例（13.2%）、乾湿に関する地名33例（27.3%）、寒暖に関する地名22例（18.2%）、季節に関する地名26例（21.5%）、風に関する地名24例（19.8%）となる。また同州南部には105例が分布し、日照・日射に関する地名23例（21.9%）、乾湿に関する地名29例（27.6%）、寒暖に関する地名17例（16.2%）、季節に関する地名19例（18.1%）、風に関する地名17例（16.2%）となる。

一方Wiltshireでは、110例を気候地名と判断した。このうち56例は同州北部に分布し、日照・日射に関する地名4例（7.1%）、乾湿に関する地名8例（14.3%）、寒暖に関する地名23例（41.1%）、季節に関する地名11例（19.6%）、風に関する地名10例（17.9%）となる。また同州南部には54例が分布し、日照・日射に関する地名6例（11.1%）、乾湿に関する地名6例（11.1%）、寒暖に関する地名12例（22.2%）、季節に関する地名21例（38.9%）、風に関する地名9例（16.7%）となる。

図2及び図3は、これら2州4地域のそれぞれにおいて日照・日射、乾湿、寒暖、季節、風に関する各気候地名が占める割合を円グラフで示したものである。

図2の通り、Berkshireでは北部・南部ともほぼ類似の結果となり、ともに乾湿に関する地名の割合が高い。一方Wiltshireでは、図3の通り、北部では寒暖、南部では季節に関する地名の割合がきわめて高い。Berkshireと比較すると、北部・南部とも、日照・日射及び乾湿に関する地名の割合がかなり低い。

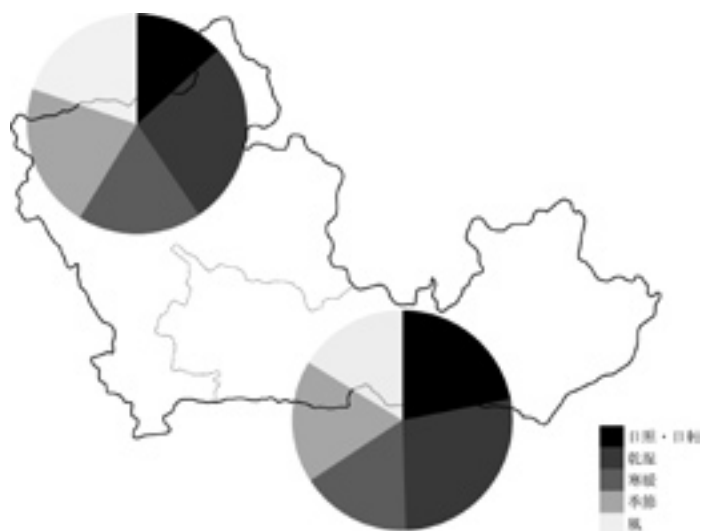


図2. Berkshire における気候地名の気候要素別（大分類別）割合

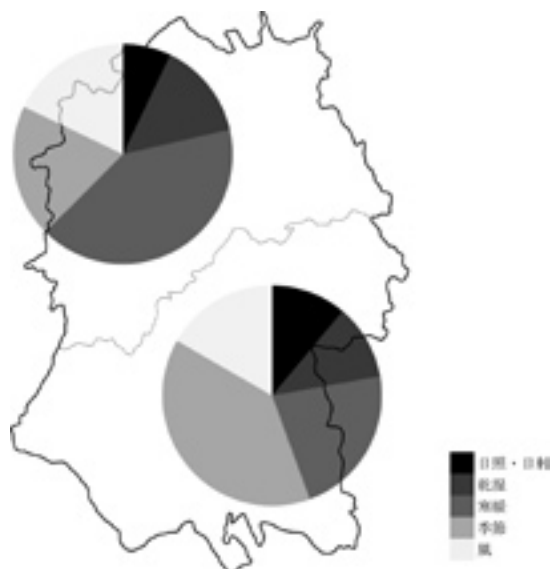


図3. Wiltshire における気候地名の気候要素別（大分類別）割合

4. 日照・日射に関する地名

表1に州別、各州地域別、小分類別の出現数を示す。「小分類」欄の「明」は「明るい」または「太陽」を、「暗」は「暗い」を意味する古語に由来する地名である。表1から以下の表5の「州」欄ではBerkshireを「Brk」、Wiltshireを「W」とする。また「数(内数)」欄には「小分類」欄の各項に該当する地名の数、及びその中に占めるfield-names (f.n.)の数を内数として括弧内に示す。

「明るい」を意味する地名は、いずれも日照・日射に恵まれた土地、豊かな日射を反射す

る水面、あるいはそうした水面を有する土地に与えられた地名と考えられる。これらの語源に関与する単語については、これまでの研究で古英語形容詞beorht, blāc, scēne, scīrを確認していたが⁵、新たに名詞sunne（現代英語sun）を加えた。これに由来する地名は、Berkshireでは北部のSun Meadow (2_307)、南部のSun Paddock (1_84) 等18例中11例（北部6例中2例、南部12例中9例）、Wiltshireでは北部のSunny Side Farm (244)、南部のSunnyhill Farm (352) のように3例中2例（北部1例中1例、南部2例中1例）となり、全体に占める数は非常に多い。

一方「暗い」を意味する地名は、主に植生や地形の関係から、どちらかといえば日照・日射には恵まれない土地に与えられた地名と考えられる。これらの語源に関与する単語として、これまでに古英語形容詞blāc及びdierne、同名詞heolstorを確認していたが⁶、新たに形容詞deorc（現代英語dark）及び「暗い」を意味するblind（現代英語blind）を加えた⁷。前者に由来する地名は、Berkshireでは北部のDark Lane (2_318)、南部のDark Wood (1_31) 等21例中11例（北部10例中2例、南部11例中9例）、

表1. 日照・日射に関する地名の出現数

州	数	地域	数	小分類	数(内数)
Brk	39	北部	16	明	6 (f.n. 3)
				暗	10 (f.n. 4)
		南部	23	明	12 (f.n. 5)
				暗	11 (f.n. 2)
小計	39 (f.n. 14)				
W	10	北部	4	明	1 (f.n. 0)
				暗	3 (f.n. 2)
		南部	6	明	2 (f.n. 0)
				暗	4 (f.n. 1)
小計	10 (f.n. 3)				
合計	49 (f.n. 17)				

Wiltshireでは7例中2例（北部3例中0例，南部4例中2例），すなわち Darcklane（178）及びDark Croft（501）である。一方，後者に由来する地名は，ともにBerkshire北部のBlyndelake（2_349）及びBlind Corner（2_374）2例にとどまる。

表1が示す通り，日照・日射に関する地名の両州合計49例中17例（34.7%）がfield-namesで，これらの正確な位置特定が急務である。

5. 乾湿に関する地名

表2に州別，各州地域別，小分類別の出現数を示す。「小分類」欄のうち，「乾」は「乾いた」を意味する古英語形容詞drȳge（現代英語dry）に由来する地名で，Berkshire北部のDry Meadow（2_405），Wiltshire北部のDrynham（139）等が，「湿」は「湿った」を意味するwēt（現代英語wet）に由来する地名で，Berkshire南部のWet Furlong（1_165），Wiltshire南部のWet Lane（178）等がある。また「露」は古英語名詞dēaw（現代英語dew）に由来する地名で，Berkshire北部のDews Mead（2_358），Wiltshire南部のDewdown Copse（192）等が，そして「虹」はrainbow（古英語regn及びboga）に由来する地名で⁸，Berkshire南部のThe Rainbow（1_209），Wiltshire北部のRainbow Hill（463）等がある。

表2において特に明らかな

表2. 乾湿に関する地名の出現数

州	数	地域	数	小分類	数(内数)
Brk	62	北部	33	乾	18 (f.n. 17)
				湿	10 (f.n. 9)
				露	4 (f.n. 4)
				虹	1 (f.n. 1)
		南部	29	乾	21 (f.n. 20)
				湿	5 (f.n. 4)
				露	1 (f.n. 0)
				虹	2 (f.n. 2)
小計	62 (f.n. 57)				
W	14	北部	8	乾	5 (f.n. 3)
				湿	2 (f.n. 2)
				虹	1 (f.n. 1)
		南部	6	乾	3 (f.n. 2)
				湿	1 (f.n. 0)
				露	1 (f.n. 0)
				虹	1 (f.n. 1)
				小計	14 (f.n. 9)
合計	76 (f.n. 66)				

地域差となって現れているのが、「乾いた」と「湿った」を意味する地名間の出現数の差である。「乾」21例、「湿」5例というBerkshire南部の格差は、他の3地域に比べて極めて顕著なものとなっている。この問題については、今後、地形や地質とはじめとする地理学的・地質学的諸要因、さらに気温や降水量などの気候学的諸要因を、周辺地域との比較において検討する必要があるだろう。

表2が示す通り、両州の合計出現数には大きな隔たりがあるが、これはfield-namesを網羅的に収集したBerkshire（1973-76年出版）と、付加的な提示にとどめたWiltshire（1939年出版）の『要覧』間に存在する地名収集方針の違いを考慮する必要がある。現状では位置特定が困難なfield-namesは、両州合計76例のうち66例（86.6%）にのぼり、特にBerkshireでは62例中57例（91.9%）を占める。しかし一方でこれらの数値は、前節の日照・日射に関する地名に占めるfield-namesの割合34.7%と比較した場合その約2.5倍となり、かえって両者の立地の違い、すなわち居住地あるいは非居住地のどちらに多い地名なのかを判断する上で有効な指標にもなっている。

6. 寒暖に関する地名

表3に州別、各州地域別、小分類別の出現数を示す。

「小分類」欄のうち、「寒」は「寒い」を意味する地名で古英語ceald（現代英語cold）、cōl（現代英語cool）、あるいはcyle（現代英語chill）のいずれかに由来する。圧倒的に多いのがcealdに由来する地名で、Berkshire北部のChadwell（2_525）、同南部のCalcot Place（1_222）、Wiltshire北部のGreat and Little Chalfield（115）、同南部のChannel Hill Farm（402）等がある。一方、cōlに由来する地名はBerkshire北部のColwell Mead（2_440）、同南部のCoombesbury Farm（1_234）の2例、cyleに由来する地名はBerkshire南部のChill Hill（1_110）の1例に過ぎない。

「CH」はCold Harbour, Coldharbourに加え、これらの異形となるCold Arbor, Coldharborowe、さらにこれらにBarn, Farm, Lane, Copseなど他の要素が後続する地名を一括りにしたものである⁹。表3が示す通り、これら一群の地名はBerkshireの北部・南部ではともに半数にさえ満たないが、Wiltshireではともに半数以上を占める。

「雪」は古英語snāw（現代英語snow）に由来する地名で、Berkshire北

部のSnowdo(w)n (2_515, 2_521) 2例, 同南部のSnow Hill (1_30), Wiltshire北部のSnow Hill (266) がすべてである。いずれも「丘」を意味する古英語dūn (現代英語down) あるいはhyll (現代英語hill) が第2要素となる点が共通している。これらは、乾湿に関する地名との関連も考慮する必要があるだろう。

また、「暖かい」を意味する地名が全く認められない点は、宅間 (2013) で扱ったSurry及びSussexの場合と同様である。

両州合計74例となる寒暖に関する地名では、位置特定が困難な field-names は25例 (33.8%) にとどまり、割合としては日照・日射に関する地名の34.7%に近い数値となっている。

Great and Little Chalfield (115) は「寒い」を意味する地名の1つで、Wiltshire北部の西寄りに位置し¹⁰, Great Chalfieldには領主の邸宅 (manor house) がある (写真1)。風除けとなる地形のない平坦な土地に、周辺の諸集落から完全に孤立した状況は、『要覧』の定義通りである¹¹。Little Chalfieldは、邸宅の正面入口から西へ1キロほどの場所にあり、立地条件はこれと全く同じである。

表3. 寒暖に関する地名の出現数

州	数	地域	数	小分類	数(内数)
Brk	39	北部	22	寒	11 (f.n. 1)
				CH	9 (f.n. 1)
				雪	2 (f.n. 2)
		南部	17	寒	13 (f.n. 4)
				CH	3 (f.n. 2)
				雪	1 (f.n. 0)
小計	39 (f.n. 10)				
W	35	北部	23	寒	8 (f.n. 4)
				CH	14 (f.n. 8)
				雪	1 (f.n. 0)
		南部	12	寒	6 (f.n. 2)
				CH	6 (f.n. 1)
小計	35 (f.n. 15)				
合計	74 (f.n. 25)				

7. 季節に関する地名

季節に関する地名は、「夏」を意味する古英語sumor (現代英語summer) か「冬」を意味する古英語winter (現代英語winter) のいずれかに由来し、Berkshire北部のSummer Leaze (2_301), 同南部のWinterbrook (1_163), Wiltshire北部のGreat and Little Somerfod (73), 同南部のWin-



写真1. Great Chalfield の邸宅

terbourne Dauntsey, Earls and Gunner (383) 等がある。表4に州別、各州地域別、小分類別の出現数を示す。

表4を上から下へ、言い換えれば、地理的にBerkshire北部からWiltshire南部へ南下するように出現数を見ていくと、Berkshire北部からWiltshire北部までは「夏」と「冬」が同数、あるいは「夏」が「冬」より多いが、Wiltshire南部に至ると「冬」が「夏」を上回っているのがわかる。注目すべきは、同地域の「冬」を意味する地名15例のうち13例(86.7%)について、現在の地名にWinterbourneなる綴りが認められるか、あるいは古形にWintreburneまたはその異

表4. 季節に関する地名の出現数

州	数	地域	数	小分類	数(内数)
Brk	45	北部	26	夏	13 (f.n. 10)
				冬	13 (f.n. 7)
		南部	19	夏	14 (f.n. 9)
				冬	5 (f.n. 2)
小計	45 (f.n. 28)				
W	32	北部	11	夏	7 (f.n. 2)
				冬	4 (f.n. 2)
		南部	21	夏	6 (f.n. 3)
				冬	15 (f.n. 0)
小計	32 (f.n. 7)				
合計	77 (f.n. 35)				



写真2. Summerside の町並み

形を確認することができるという点である¹²。Winterbourneは、語源的には「冬の小川」を意味し、「冬に最も勢いよく流れる小川」をいう¹³。13例の地名は、いずれもRiver TillまたはRiver Bourneの流域に位置する。これらはともにWiltshire南部のやや東寄りを流れるSalisbury Avonの支流で、特にRiver Tillの古形はWinterbourne Waterである¹⁴。またRiver Bourne及びSalisbury Avonはともにchalk riversと呼ばれ、チョーク層の湧水を水源とする¹⁵。「冬に最も勢いよく流れる小川」というwinterbourneは、チョーク層特有の景観とされている¹⁶。これらの点を総合すると、少なくともRiver Till及びRiver Bourneの上流域を含むWiltshire南部については、夏よりも冬にかなり雨がが多いという気候学的条件と¹⁷、冬の雨を地下水として満たす帯水層となるチョーク層、そしてそこから水の供給を受ける湧水の実在という地質学的条件を想定することが可能である。

なお季節に関する地名では、両州合計77例のうち35例（45.5%）をfield-namesが占め、現状では半数弱の位置特定が困難である。

Summerside (2_387) は「夏」を意味する地名の1つで、Bucklandという集落の最南端にある¹⁸。『要覧』の扱いではBerkshire北部となるが、現在はOxfordshireの一部である。東西に走るSummerside Roadには南向きの住宅が立ち並び（写真2）、地元の小学校もこの通り沿いにある。巡検

当日の天候は曇りであったが、集落の南限となる通りであること、左の土手を越えた南側は一面の耕地であることから、日照・日射に恵まれた場所ということは容易に想像がつく。「夏」を意味する地名ではあるが、「明るい」及び「暖かい」を意味する地名との関連を考えさせる例である。

8. 風に関する地名

風に関する地名は、「風」を意味する古英語wind（現代英語wind）か「風車」を意味するwindmill（古英語wind及びmyln）のいずれかに由来する。表5は、後者を「WM」として、これらの地名の州別、各州地域別、小分類別出現数を示す。

両州合計60例となる風に関する地名では、位置特定が困難な field-names は30例（50.0%）となり、乾湿に関する地名に次いで高い割合となる。例としては、Berkshire北部の Windesherde (2_301)、同南部の Windmill Hill (1_118)、Wiltshire 北部の

Windmill Field (464)、同南部のWindwhistle Farm (375) 等が挙げられる。

第2節・5節で述べた両州『要覧』のfield-names に対する収集方針の違いを考慮した上で表5を見ると、「WM」の数が最北のBerkshire北部から最南のWiltshire南部へ向けて順次減少し、第5節の表2に示した「乾」と「湿」の合計に見られる推移と対応しているのがわかる¹⁹。風力資源としての風車について吉野は、「北西ヨーロッパでも中世には水車が利用できにくい低地（中略）で、風車がたくさん利用されていた」と述べている²⁰。これによれば、水車を十分に稼働させるだけの水勢に恵まれない低地、年間を通して降水量が少ないために河川の水量が不十分で、安定的に

表5. 風に関する地名の出現数

州	数	地域	数	小分類	数(内数)
Brk	41	北部	24	風	2 (f.n. 2)
				WM	22 (f.n. 15)
		南部	17	風	3 (f.n. 2)
				WM	14 (f.n. 4)
小計	41 (f.n. 23)				
W	19	北部	10	風	1 (f.n. 0)
				WM	9 (f.n. 5)
		南部	9	風	4 (f.n. 1)
				WM	5 (f.n. 1)
小計	19 (f.n. 7)				
合計	60 (f.n. 30)				

水車を稼働させることができない地域，あるいは恒常的に風が強い土地と風車が関連するという仮説を立てられそうである。今後は，これを踏まえて地形も考慮に入れつつ，乾湿及び季節に関する地名との相関も検討したい。

Windmill Farm (2_340) は「風車」を意味する地名のひとつで，Berkshire北部の南西寄りに位置する²¹。2万5千分の1の地形図によれば，写真3中央やや上の骨組み状構造物が見える場所がWindmill Farmである。『要覧』は1273年，この地に風車が存在したことを伝える記述を引用している²²。南西方向へ緩やかにのぼる尾根上にあるので，風当たりは良さそうである。

9. Berkshireにおける「乾いた」及び「湿った」を意味する地名の分布(試案)

これまで日照・日射に関する地名から風に関する地名について述べる中で，現状では位置の特定が困難なfield-namesの数と全体に占める割合に触れてきた。これらは，最小となる寒暖に関する地名でも33.8%，最大となる乾湿に関する地名では86.6%を占める。最終的にBerkshire，Wiltshire両州合計336例のうちの173例，51.5%がfield-namesである。

本来であれば，これらすべての位置が地図上で特定できない以上，正確な分布図の作成はできないところだが，本節では試案として，Berkshire



写真3. Windmill Farm 付近の風景



図 4. Berkshire における「乾いた」及び「湿った」を意味する地名の分布

における「乾いた」及び「湿った」を意味する地名の分布図を代替指標によって作成し、その妥当性を検討する。

分布図の作成にあたっては、Berkshireの『要覧』第2巻に付された同州の地図を利用した。この地図には、Berkshire内の全教区（parish）の境界が教区名とともに示されている。『要覧』ではfield-namesはすべて教区単位で示されるので、対象となるfield-namesが所在する教区をすべて確認し、field-names以外の地名も含めて、それぞれを各教区域の中心部にプロットした。すなわち、各教区域の空間的広がりを踏まえて筆者が判断したこの「中心部」が代替指標である。

図4は、第5節の表2に示したBerkshire北部の「乾」18例及び「湿」10例と南部の「乾」21例及び「湿」5例を対象に、上で述べた手順に従って作成した分布図である。図中の丸は「乾」を、三角は「湿」を示す。

代替指標による分布図とはいえ、「乾いた」及び「湿った」を意味する地名の分布傾向をおおまかに把握するには十分である。これらの地名がまとまって分布するのは、まず北部の北東域である。ここでは「乾」「湿」双方がかなり近接して分布している。地形的には丘陵地帯North Wessex

Downsの北麓に広がる平地で、River Thames上流部の右岸一帯である。次に南部の南西域にもかなりまとまっている。ここでは北部の北東域ほど「湿」が「乾」に近接することではなく、数も少ない。前出のNorth Wessex Downsに北・西・南を囲まれた盆地で、東に向かうRiver Kennetの流域である。また南部の北東域にもまとまって分布する。これまでの2域と大きく異なるのは、「湿」の分布は1例に過ぎず、ほぼ「乾」のみが集中する点である。地形的には丘陵地帯Chilterns南西端の南麓に広がる平地で、River Thames中流部の左岸一帯である。

以上、代替指標による図4から明らかになるのは、少なくともBerkshireに関する限り、「乾いた」及び「湿った」を意味する地名はともに平地に多く分布すること、場所によって両者がかなり近接する場合とそうでない場合があること、そして大規模な河川の付近かその流域に多いという3点である。

10. むすび

本稿では、Berkshire及びWiltshireの『要覧』から収集した気候地名336例を扱い、日照・日射に関する地名、乾湿に関する地名、寒暖に関する地名、季節に関する地名、風に関する地名の順で、両州を北部と南部に分けて、それぞれ研究成果を述べてきた。また、2012年夏に実施した両州巡検において、実際に現地踏査した気候地名のいくつかを実例として紹介した。

今回は、宅間(2013)で研究対象としたSurrey, Sussexでは特に考慮しなかったfield-namesの扱いには慎重を期した。第2節・5節で述べた通り、これについては『要覧』においてさえも、その出版時期によって扱い方が大きく異なるので今後も注意を要する。現状ではこれらの位置特定は困難だが、第9節で詳述した代替指標による分布図作成によって、分布傾向の概略が把握できることが明らかになったのは大きな成果であった。

また、Berkshireから開始した「イングランドの気候地名データベース」構築は、『要覧』から引き出す情報の幅拡大とその精度向上のみならず、情報検索の効率化と高度化にもつながり、結果的に論文執筆にも大きく貢献した。今後はSurrey, Sussexの分も含め、すでに地名収集が完了した他州の『要覧』から得られた情報も順次入力し、データベースの構築を継続する。

一方、宅間（2013）で触れた気候地名の定義の体系化²³については、いまだに明確な結論には到達していない。今後、さらなる収集作業によって気候地名の例を蓄積して慎重な考察を重ねるとともに、現地踏査によって、問題となる土地の地形や景観を直に確認・検討する必要がある。

付記 本稿は、独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）の交付を受けて行った研究の成果である（挑戦的萌芽研究：平成23年度から平成25年度）。

注

- 1 吉野（2001），2頁参照。
- 2 引用した日本及びドイツ語圏の気候地名は、すべて吉野（2001）による。
- 3 図1で用いる白地図（無料データ1102番，ファイル名：europe_euro_uk_kouiki_2_2.gif）は、三角形データ再利用工房が運営するウェブサイト「白地図，世界地図，日本地図が無料」（<<http://www.freemap.jp>>）からダウンロードさせて頂いた。この場を借りて謝意を表したい。なお紙幅の都合上，必要としない部分を割愛して利用させて頂く。
- 4 現時点では，データベース内部の情報を精選し，インターネット上に公開する方策を模索している。
- 5 宅間（2013），97頁参照。
- 6 同上。
- 7 形容詞blindについてはSmithの定義“dark”に従った。ただ，deorcに比べるとやや多義的であり，今後用例の収集と合わせて総合的な検討を要する。
- 8 rainbowに由来する地名については，厳密に語源の観点から気候地名とみなすには多少困難が伴う。詳細は宅間（2013），99頁及び101-102頁参照。
- 9 宅間（2013），99頁参照。これら「CH」のcoldについて筆者は，「Mills, Wattsとも『居住に適さない』を意味する形容詞inhospitableを用いて解説している」点を指摘し，それに基づいて「少なくとも『気温が低い』という意味でのcold（『寒い』）でないことは確かなようである」と述べた。しかし，その後の地名収集作業，さらに2013年8月末から9月上旬にかけて実施したイングランド南西部巡検の過程で，必ずしもそのように言い切ることはできないのではないかと考えに至り，現在検討を継続中である。
- 10 2012年8月25日巡検。
- 11 “cold or exposed open space”と定義されている。Gover, Mawer, and Stenton, 115頁参照。
- 12 Gover, Mawer, and Stenton, 10頁, 232-237頁, 382-384頁参照。

- 13 Mills, *Winterborne, Winterbourne*参照。
- 14 Gover, Mawer, and Stenton, 10頁参照。
- 15 Environment Agency, 4頁参照。
- 16 Hart, 144頁参照。
- 17 Wiltshire南部における夏と冬の平均降水量の差については、宅間（2011），110-111頁参照。
- 18 2012年8月24日巡検。
- 19 表2における「乾」と「湿」の合計は以下の通りである：Berkshire北部28例，同南部26例，Wiltshire北部7例，同南部4例。
- 20 吉野（2007），322-323頁参照。
- 21 2012年8月26日巡検。
- 22 Gelling（1974），340頁参照。“Uplambourn had a windmill in 1273”という*The Victoria History of the County of Berkshire*（1906-24）第4巻253頁からの引用である。
- 23 宅間（2013），101-102頁参照。

参考文献

一次資料

- Gelling, Margaret. *The Place-Names of Berkshire*. English Place-Name Society 49. 1973 new issue Irthlingborough: Woolnough Bookbinding, 1995.
- . *The Place-Names of Berkshire*. English Place-Name Society 50. Cambridge: Cambridge University Press, 1974.
- . *The Place-Names of Berkshire*. English Place-Name Society 51. 1976 rpt. Irthlingborough: Woolnough Bookbinding, 1995.
- Gover, J. E. B., Allen Mawer, and F. M. Stenton. *The Place-Names of Wiltshire*. English Place-Name Society 16. 1939 rpt. Irthlingborough: Woolnough Bookbinding Ltd, 1992.

二次資料

- Ekwall, Eilert. *The Concise Oxford Dictionary of English Place-Names*. 4th ed. Oxford: Clarendon Press, 1960.
- Hart, Malcolm. *Dorset and East Devon—Landscape and Geology*. Ramsbury: Crowood Press Ltd, 2009.
- Mills, A. D. *A Dictionary of British Place-Names*. Oxford: Oxford University Press, 2011.
- Smith, A. H. *English Place-Name Elements*. English Place-Name Society 25, 26. 1956 rpt. Nottingham: English Place-Name Society, 2008.

- Streetmap - Maps and directions for the whole of Britain*. Streetmap. 15-17 September 2013: <<http://www.streetmap.co.uk>>.
- The State of England's Chalk Rivers—Summary report by the UK Biodiversity Action Plan Steering Group of Chalk Rivers*. Bristol: Environment Agency, 2004. 15 September 2013: <http://adlib.eversite.co.uk/resources/000/057/268/Summary_chalk_rivers.pdf>.
- Watts, Victor. ed. *The Cambridge Dictionary of English Place-Names*. Cambridge: Cambridge University Press, 2004.
- 「イギリスのダウンロード，無料データ1102番」 三角形データ再利用工房 2011年7月4日：<http://www.freemap.jp/download.php?a=europe&c=euro_uk_kouiki_2>.
- 宅間雅哉 「イングランドの気候地名研究—英語史研究の視点から」『山梨英和大学紀要』第8号，2010年，山梨英和大学，65-94頁.
- 「『河畔の低地草地』に由来するイングランドの地名：気候地名との関連をさぐるための基盤研究」『山梨英和大学紀要』第9号，2011年，山梨英和大学，85-119頁.
- 「イングランドの気候地名：Surrey及びSussex」『東京未来大学研究紀要』第6号，2013年，東京未来大学，95-107頁.
- 吉野正敏 『気候地名集成』古今書院，2001年.
- 『気候学の歴史 古代から現代まで』古今書院，2007年.